

腹腔鏡内視鏡 合同手術研究会

Laparoscopic Endoscopic Cooperative Surgery
第17回 2018年3月9日

■総合討論
全員参加型
アンサーパッド討論

「LECSの術式選択、適応拡大、さらなる低侵襲化の可能性」
"Choice of procedure, expanded indication and less-invasive approach of LECS"

司会 川久保博文先生（慶應義塾大学病院一般・消化器外科）
後藤修先生（慶應義塾大学病院腫瘍センター消化器内科）

Moderator:

Hirofumi Kawakubo, M.D., Ph.D., Department of General and Gastroenterological Surgery, Keio University, School of Medicine, Japan

Osamu Goto, M.D., Cancer Center, Keio University, School of Medicine, Japan

「低侵襲化」の御旗のもと外科医と内科医が互いに歩み寄り生まれたLECSは、保険収載を経て瞬く間に本邦で市民権を得、今やそのコンセプトは海外からも注目されるに至っております。また、LECSが普及するにつれ、よりよい切除法をめぐって様々な術式が考案されております。それに伴い、LECSのターゲットは胃粘膜下腫瘍から上皮性腫瘍および他臓器へと徐々にその適応の拡大が図られつつあります。一方で、外科と内科、腹腔鏡医と内視鏡医との間でどのようなバランスを保ってこのコラボレーションが成立しているのか、また今後このバランスがどのように変化していくのか、今後のLECSの展開を占う意味でも非常に興味深いところでもあります。

本セッションでは、アンサーパッドを用いた全員参加型のアンケートを通じて、LECSの術式選択、適応拡大、コラボレーションの現状と展望などについてディスカッションを行いたいと思います。LECSを極めた方もこれから始めようと思っている方も奮ってご参加いただき、ぜひ忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。